

特別支援教育だより

三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園・教育支援部 2012.9.27 第47号

心地よい季節になりました



残暑厳しい日が続いていましたが、秋分の日がすぎるとさわやかな秋風にコスモス、赤とんぼと本格的な秋を思わせる日々になってきました。

さて今年も夏季休業中には、名張市や伊賀市の巡回相談に協力させていただき、保護者の就学へのニーズを伺いました。また、中学校の研修会にも参加させていただき、場面緘黙についての研修と、校内の生徒の具体的な事例を検討する中で、気になる行動をどのように見て分析、解釈していくのか、どのような支援が必要なのかを現場の先生方と一緒に研修しました。職員間で時間をかけて熱心な意見交換、支援の検討がなされ、私たちもともに共通認識することができました。

外部の講演会に参加した中で、再度特別支援教育について考える機会もありました。特別支援教育は対処療法でなく予防の教育(前もって子どもの持っている力をとらえて指導する教育)。一人ひとりに合った対応を取れるよう、子どもの実態を把握するための知識を持ち、理解していこうとすることが一番のポイントになること。私たち(教師、保護者など大人)の子どもを見る目を固定化、習慣化するのではなく、変えていくことが必要なこと。なにより、診断名のあるなしに関係なく、すべての子どもにとって必要な教育であること。よく言われていることですが、そういうことを再度多くの方と確認していきたいと思いました。

本校からの発信の場ということで、この夏も2本の公開研修会を開き、伊賀地域の保・幼・小・中・高の先生方はもちろんのこと、関係機関及び県内の特別支援学校等からも多くの方々に参加していただきました。ありがとうございました。併せて校内での職員研修も行いました。今回はその夏季研修会(講演会)の概要をお知らせします。なお、下記概要文章中の「障害」「しょうがい」「障がい」の各表記については、各講演者のレジメ表記に従いました。ご了承ください。

夏の研修会(講演会)の概要について

〈8月8日「子どもの困難の要因にそった支援を」

～校内支援システムと連動する通常学級での支援～

講師 山田 充先生 (堺市立日置荘小学校)

- ・日置荘小学校子ども支援委員会(教育相談を軸にした支援システム)
- ・ **すべての保護者に支援教育を理解してもらうことが重要**
- ・入学説明会でのミニ講演会+家庭訪問時に委員会の案内配布⇒保護者に前向きに教育相談に申し込んでもらうため、相談のハードルを下げるのが大切
- ・ひとりひとりの子どもに合った支援・個性を生かす(一人ひとりの個性とは何かを明らかにする。

個性はトラブルの原因になることもある。**個性の原因を明らかにすることで、そこへの支援を考**
えていくことができる。)

- ・たとえば暴力的・どの要因であっても「暴力はダメ」という指導は必要+その子の要因
に対するの根本的支援。背景となる要因を見つけて支援をしていくのが子ども支援委員会
の仕事。
- ・子どもの状態だけで見ない・
 - 問題に見える行動や現象は氷山の一角。
 - 背景に潜む本質的な要因を考える。
 - 発達の視点で対応を考えていく。もともと持っている発達上の困難・環境(育ちの中で身につけてしまったこと)・セルフエス
ティーム(本人の意欲の低下)。
- ・発達の偏りや認知面に問題のある子ども・学び方が違う子ども
〈子ども一人ひとりをきちんと見て、わからない原因を考えていくことが大切〉
〈その子の学びの道筋を明らかにしていくことが、その子どもを支える支援である〉
- ・特別支援教育は発達障害の子どもだけを対象としているのではなく、**困っている子はすべて支援
の対象。保護者と学校が協力・共同して支援をする。キーワードは「発達」。「発達」を基準に子
どもの困り感に寄り添う。**(トラブルや困り感を「発達」という物差しで見直していく。) **特別支
援教育の捉え方を学校全体で共通認識**(そのために委員会の定例開催・すべての先生が委員会に出
席できるようメンバーの工夫(輪番制など)・学年会の役割)
- ・子どもにダメージを与えず一度で正確な支援方針を出すためのアセスメントの重要性・「なぜト
ラブルはおこるのか?」・気持ちに寄り添うだけでは解決しない。子どもの状態だけで判断しな
い。子どもの特徴や全体像を明らかにして、発達障害の特徴との関連を考えていく。

教育相談＝アセスメント(情報収集)

- ・コーディネーター・支援者として求められること・
 - 子どもの状態をリアルに見ることができる。
 - それぞれの発達障害の特性を知っている。・(各自での学び)
 - 子どもの状態と発達障害の特性を関連づけることができる。・(事例検討を重ねる。)
- ・学校における二次障害
小4年～急激に学習内容が難しくなり、学習の抽象化が始まる。それまでの努力だけでは解決で
きなくなる。叱られ続け、不適切対応を続けて、子どもの意欲を下げ、自尊心を下げ続けたこと
が原因。**自尊感情を下げないために子どもの特性をきちんと捉え、そこに沿った対応がポイント。**
- ・弱い認知を支えるために・多感覚療法(さまざまな感覚を統合して、認知を促していく。(視
覚・聴覚・触覚・運動など)
- ・根本的にはことばを育てる指導・すべての教科の基礎として必要。言葉を大事にする観点の共
通認識が必要。ワーキングメモリーの弱さをトレーニングすることは必要だが、学習の中では難
しい。遊びの中での記憶のトレーニングが有効。学習の中では、視覚支援などの方法を使って弱
さの補完を考えるほうが重要。
- ・授業では・視覚支援と聴覚支援併用の工夫。積極的にICTの活用。(手早く、効率的に、拡
大して見せることが可能)

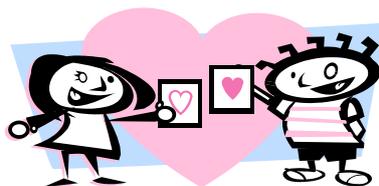


〈 8月10日 「しょうがい者への「性」に対する支援について」

～在学中からできることは～ 知的しょうがい者へのセクシャリティ支援)

講師 和泉とみ代先生 (吉備国際大学)

- ・【セクシャリティ】とは・・・人間一人ひとりの人格に不可欠な要素であり、個人と社会的構造の相互作用を通して築かれ、個人の対人関係、社会の幸福に不可欠のものである。
- ・セクシャリティの支援＝生と性への支援＝**人生の豊かさを支えるための支援の一つ**
- ・**性への要求はあたりまえ。しょうがいの有無に関係ない。日常の中にある普通のこと。**問題の背景に、性教育をないがしろにしてこなかったか？職員や親の性への捉え方はどうか？指導者側の伝えるときの態度や言葉のあいまいさはなかったか？問題は私たちの側にある。**指導する側のきちんとした学習。伝える姿勢はどうか？**
- ・障害の有無で難しさに差がある。なにが心配なのか？・・・つきあい。結婚。子育て。など**支援は生きることへの支援。**困った時に相談に乗る人生の伴奏者として。また、生きやすい環境づくり。周りが必要なことを教える。
- ・性を育てる
 - ①子どもの頃・・・理解力に合わせて、素直に説明すること。(自然に、テレビ番組なども利用)
 - ②子どもからおとなへ・・・発毛の意味・一人できれいに体を洗うことの指導・青年期の性欲求の解消方法の適切な指導。スポーツや労働を十分にさせ、正常な生活習慣を身につける。初潮時の手当、処理方法の指導。年令に合わせた避妊の話も。同性の指導者の存在。
- ・異性への関心のめばえから現れる行動を思春期の特徴の一つとして受けとめ「発達の芽」となるよう適切なアドバイスをしていく。
- ・**根気よくかわり教育指導。言葉の理解が難しければ、実際にその都度、その場で指導。わかるレベルを繰り返し、レベルアップをする。わかりやすい教材の工夫。何もかも制限でなく、望ましい行動のとり方を指導。どこで、どんなマナーで、いいものとダメなものの区別。ダメなこととはなぜダメなのか(他人が嫌がること・自分がされて嫌なこと)自分を大切にする気持ちの育み。**
- 小・中・高の連携や外部機関との連携も必要。
- ・トラブルを成長の機会に変える。自立に沿った支援・・・寄り添う支援から見守りへ。
- ・**周りの人とかかわりの中で成長。生と性は対人関係の要素。**
 - 1 直接かわりあう機会が豊富な体験を生み出す。
 - ①本人からの関わりを大切にする
 - ②地域社会の諸行事に参加・参画する。
 - ③本人のニーズに応えるために地域の人に関わりを依頼。(電気屋、食堂など)
 - ④子育てを応援してくれる人とつなげる。(ママ友、保健師、ボランティアなど)
 - 2 トラブルを成長の機会に変える。
 - 3 自立にそった支援(寄り添う支援から見守りへ)



〈 8月28日 「思春期をむかえた子どもたちとのかかわりかた」 〉

講師 松久 眞実先生 (プール学院大学短期大学部)

- ・**自分の経験から**・・・今は大学の講師としてだが元々小学校の教師。小学校勤務時に受け持った学級が崩壊した経験。それを基に子どもたちとのかかわりの中で大切にしたいこと。
- ・**多様な子ども像**・・・ADHDや広汎性発達障がい、被虐待児など、いろいろな子どもの存在。ADHDの子は動きたいのをコントロールしている。いつもイライラ。授業中はとにかくよくしゃべる。人とかかわりなく一方的にしゃべる。広汎性発達障がいの子もよくしゃべる。虐待を受けた子どもたちは、感情のコントロールが苦手で、教師を挑発したり、怒らせたりしてこちらの怒りを引き出そうとする。
- ・**取り組み**・・・小学校や中学校では、**学級は秩序があって安心して過ごせることが一番大切**。そのため、通常学級ではあまり個別支援に走らない方が良いのではないかと。子どもたちをいかに興奮させずに授業に参加させるかを常に考えて取り組む。
 - ①教室を低刺激にすること。⇒学習環境の視覚や聴覚の刺激を減らす。
 - ②授業中に、必ず黙って行う課題を入れる。⇒ADHDの子ども、静寂の時間を意図的に入れると課題に取り組むことができる。
- ・**怒ること・褒めること**・・・子どもに尊敬されない先生は、「えこひいきする」「公平でない」先生。感情的、頭ごなしに怒る先生も信頼されない。子どもに信頼されるかしないか、**怒り方と褒め方**をマスターすることが信頼される近道。怒るときは、毅然とあっさり怒る、理想的なのは、「怒ったら怖そうに見える先生」。支援・手立てと尊敬されることは車の両輪のようなもの。大事なことは**全体指導は厳しく、ルールがあって筋が通っていること、そして1対1では、相手がうっとりするぐらい温かい言葉をかける**。
- ・**学校の目標**・・・「私はかけがえのない存在」と言えるような自尊感情を持った子どもを育てる。簡単に言うと大人になったときに「私もなかなかたいしたもんや」「僕もよくやっている」「おれも結構できるやん」「ちょっと えへん！」って思えるようになること。



【10～11月の予定】

- ・10月 3～5日 (水～金) 中学部修学旅行 (関西方面)
- ・10月 11～12日 (木～金) 小学部修学旅行 (名古屋方面)
- ・10月 16日 (火) 高等部説明会 (管内中学校に案内文章発送済み)
- ・10月 24～26日 (水～金) 高等部修学旅行 (沖縄方面)
- ・11月 10日 (土) つばさ祭り (12日(月)振替休業日)
- ・11月 22日 (木) **中学部公開体験 (次回中学部公開体験は1月22日(火)の予定です。)**
- ・11月 27日 (火) **小学部公開体験**



*【公開体験の申し込みについて】

- ・・・体験日の1週間前までに本校担当者(小学部：井上・中学部：坂口)まで連絡をお願いします。(TEL ☎67-1106 ☎67-1107)

〈編集後記〉 今年も夏季休業中に、研修交流会をはじめ伊賀地区の先生方や関係機関の方々と一緒に学び合う場や機会を持たせていただけたことを嬉しく思います。今後もいろいろな機会をとらえ、ともに多くのことを学び、実践を交流できると考えています。

教育支援部 山本 淳子 TEL 67-1108